

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

3月初旬、信州大学会議室で行われた、信州大学大学院・経済社会政策科学研究科の修士学位論文発表会に参加した。本年度は6名の修士学位論文が認定

され大学院を修了した。発表会は、1人30分の時間の中で、研究の概要を報告、在学生の代表が、単なる感想ではなく、研究の問題点を指摘、更にフロアに参加する教授・在校生・修士生が質疑する厳しい最後の学習の機会だ。

4月当初の論文提出の申し出をする、大学院から指導教官が指名され、教官に研究内容を論破できないと審査会に提出されない、1年間を過ごした在校時代が懐かしく思い出す。

大学院は、自らの教養を高めるのが目的だけでなく、課題の解決方法を見いだす期間であって、修了してから課題解決のための行動が待ち構えているのだ。「諏訪地域における工業生産構造の変容と企業の存続条件」を研究した阿南町地域の尾崎真理子さん。しかし研究報告内容からも課題の困難さと深刻さが浮き彫りになる。「食の安全に関する付与情報が及ぼす判断への影響」を研究した両澤増枝さん。食の安全には、情報発信の政策形成の在り方」を研究した藤原慎悟さん。データ分析に基づいた内容だが、公共施設統廃合の必要性は理解するが、地域住民意識も重要な課題との意見も。「長野市門前地区における生き残った経験を通してみる「まちづくり」という活動」を研究した勝野大樹さん。民間レベル

で「まちづくり」という活動」を研究した勝野大樹さん。民間レベル

「諏訪地域における工業生産構造の変容と企業の存続条件」を研究した阿南町地域の尾崎真理子さん。しかし研究報告内容からも課題の困難さと深刻さが浮き彫りになる。「食の安全に関する付与情報が及ぼす判断への影響」を研究した両澤増枝さん。食の安全には、情報発信の政策形成の在り方」を研究した藤原慎悟さん。データ分析に基づいた内容だが、公共施設統廃合の必要性は理解するが、地域住民意識も重要な課題との意見も。「長野市門前地区における生き残った経験を通してみる「まちづくり」という活動」を研究した勝野大樹さん。民間レベル

で「まちづくり」という活動」を研究した勝野大樹さん。民間レベル

で「まちづくり」という活動」を研究した勝野大樹さん。民間レベル

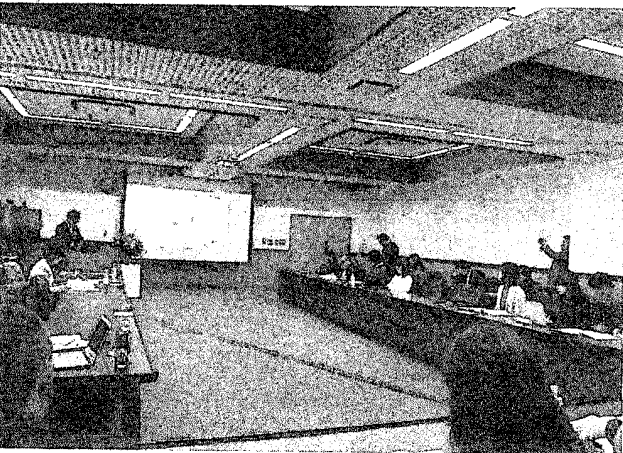
で「まちづくり」という活動」を研究した勝野大樹さん。民間レベル

で「まちづくり」という活動」を研究した勝野大樹さん。民間レベル

で「まちづくり」という活動」を研究した勝野大樹さん。民間レベル

で「まちづくり」という活動」を研究した勝野大樹さん。民間レベル

で「まちづくり」という活動」を研究した勝野大樹さん。民間レベル



発表会場を緊張させる雰囲気、密度の高い論議を展開させる

で行われる空き家再生活動の事例研究だ。参加者の「まちづくり」は計画して進めるものなのか、失敗も多い。偶発性の創造自体を考えるべきでは」の発言

は強く心に残った。課題研究を論じる困難さを体験した修了生の今後の活躍を願ってやまない。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)